



ひと、くらし、みらいのために

宮城労働局

Miyagi Labour Bureau

<https://isite.mhlw.go.jp/miyagi-roudoukyoku/>

Press Release

報道関係者 各位

令和6年7月2日（火）

【照会先】

宮城労働局労働基準部健康安全課

課 長 二木 多賀子

主任産業安全専門官 熊谷 昭彦

（電話番号）022-299-8839

令和5年の労働災害発生状況について

～死亡者数は19人と2年連続増加、休業4日以上死傷者数は2,543人と2年連続減少～

宮城労働局（局長 おやけ えいさく 小宅 栄作）では、このたび、令和5年の労働災害発生状況を取りまとめましたので公表します。

県内の事業場において、令和5年1月から同年12月までの新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除いた労働災害のうち、死亡者数は19人（前年比4名増）と2年連続で増加し、休業4日以上死傷者数^{※1}（以下「死傷者数」という。）は2,543人（前年比24人減）と2年連続で減少しました。

また、新型コロナウイルス感染症へのり患による労働災害による死傷者数は506人（前年比2,034人減）となりました。

労働災害を減少させるために重点的に取り組む事項を定めた中期計画である「宮城労働局第14次労働災害防止推進計画」（以下「14次防」という。）^{※2}では、令和9年までに令和4年比で死亡災害を5%以上減少させること（建設業及び林業においてはそれぞれ15%以上減少させること）、死傷災害の増加傾向に歯止めをかけ、死傷者数を令和4年（2,567人）と比較して令和9年までに減少に転じさせること等を目指しています。

計画の2年目となる令和6年度は、労働者の作業行動に起因する労働災害防止対策、高年齢労働者の労働災害防止対策、多様な働き方への対応や外国人労働者等の労働災害防止対策、陸上貨物運送業、建設業、製造業や林業への対策、労働者の健康確保対策、化学物質等による健康障害防止対策などに取り組んでいきます。

また、全国安全週間（7月1日～7日）とその準備期間（6月1日～30日）では、事業場、関係業界団体等に対して、積極的な労働災害防止活動の実施を働きかけます。

※1 令和5年1月1日から12月31日までに発生した労働災害について、労働基準監督署に提出のあった労働者死傷病報告のうち、休業4日以上のもの、かつ、令和6年3月31日までに提出されたものを対象に集計しています。

※2 宮城労働局「第14次労働災害防止推進計画」 計画期間：令和5年度～令和9年度

【令和5年の労働災害発生状況の概要】*3

1 死亡者数（表・グラフ1）

(1)概要

死亡者数は19人（前年比+4人・増減率+26.7%）となりました。

(2)業種別死亡者数

業種別では件数の多い順に

製造業	4人（前年比±0人）
建設業	4人（同 -1人）
商業	3人（同 +3人）
鉱業	2人（同 +2人）
その他の事業（派遣業）	2人（同 +1人）
陸上貨物運送事業	1人（同 -1人）
港湾運送業	1人（同 +1人）
林業	1人（同 +1人）
接客娯楽業	1人（同 +1人）

となりました。

2 死傷者数（表、グラフ2）

(1)概要

死傷者数は2,543人（前年比-24人・増減率-0.9%）となり、2年連続減少となりました。

(2)業種別死傷者数

業種別では件数の多い順に

商業	443人（前年比-54人・-10.9%）
製造業	410人（同 -30人・-6.8%）
保健衛生業	347人（同 +47人・+15.7%）
陸上貨物運送事業	329人（同 -6人・-1.8%）
建設業	300人（同 -9人・-2.9%）

となりました。

(3)事故の型別死傷者数（グラフ3）

事故の型別では件数の多い順に

転倒	749人（前年比-30人・-3.9%）
墜落・転落	395人（同 -17人・-4.1%）
動作の反動・無理な動作	363人（同 -4人・-1.1%）
はさまれ・巻き込まれ	254人（同 -33人・-11.5%）

となっています。このうち、作業行動に起因する「転倒」（749人・構成比29.5%）、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」（363人・同14.3%）この2つで全体の43.7%を占めています。

(4)月別死傷者数（グラフ4）

令和5年の1月は暖冬の影響で、凍結等による転倒災害が減少しました。

(5)年代別死傷者数（グラフ5、6）

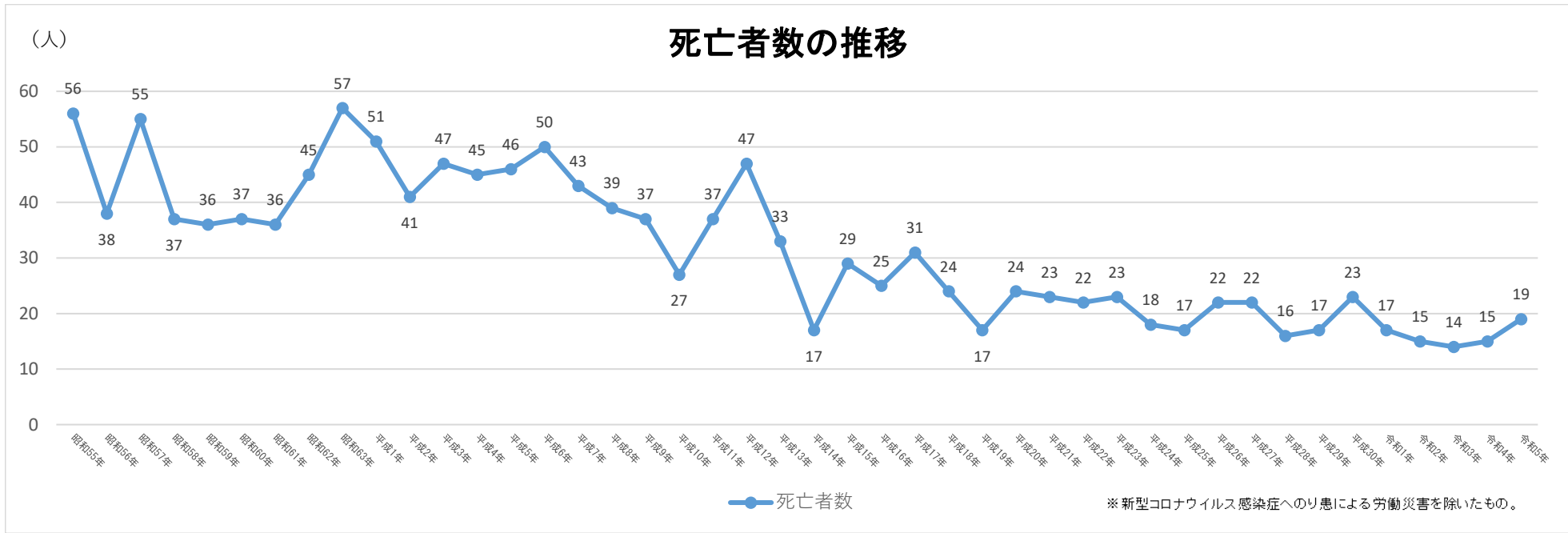
60歳以上の高年齢労働者が755人（前年比+3人・+0.4%）となり、全体の29.7%を占めています。

転倒災害のうち60歳以上の高年齢労働者が315人（構成比42.1%）でした。このうち、女性が199人（同63.2%）を占めています。

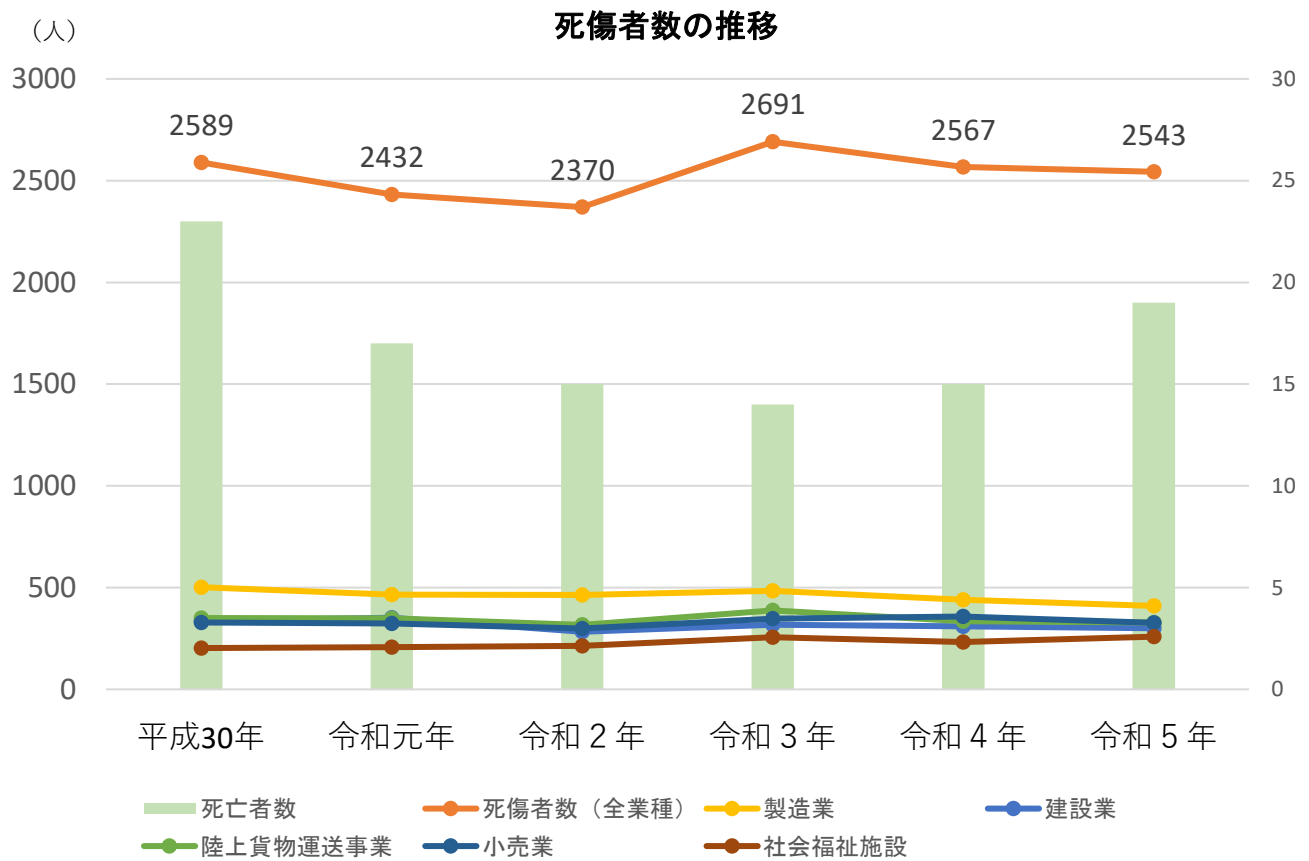
※3 死亡者数及び死傷者数は、いずれも新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除いたもの。

添付資料等

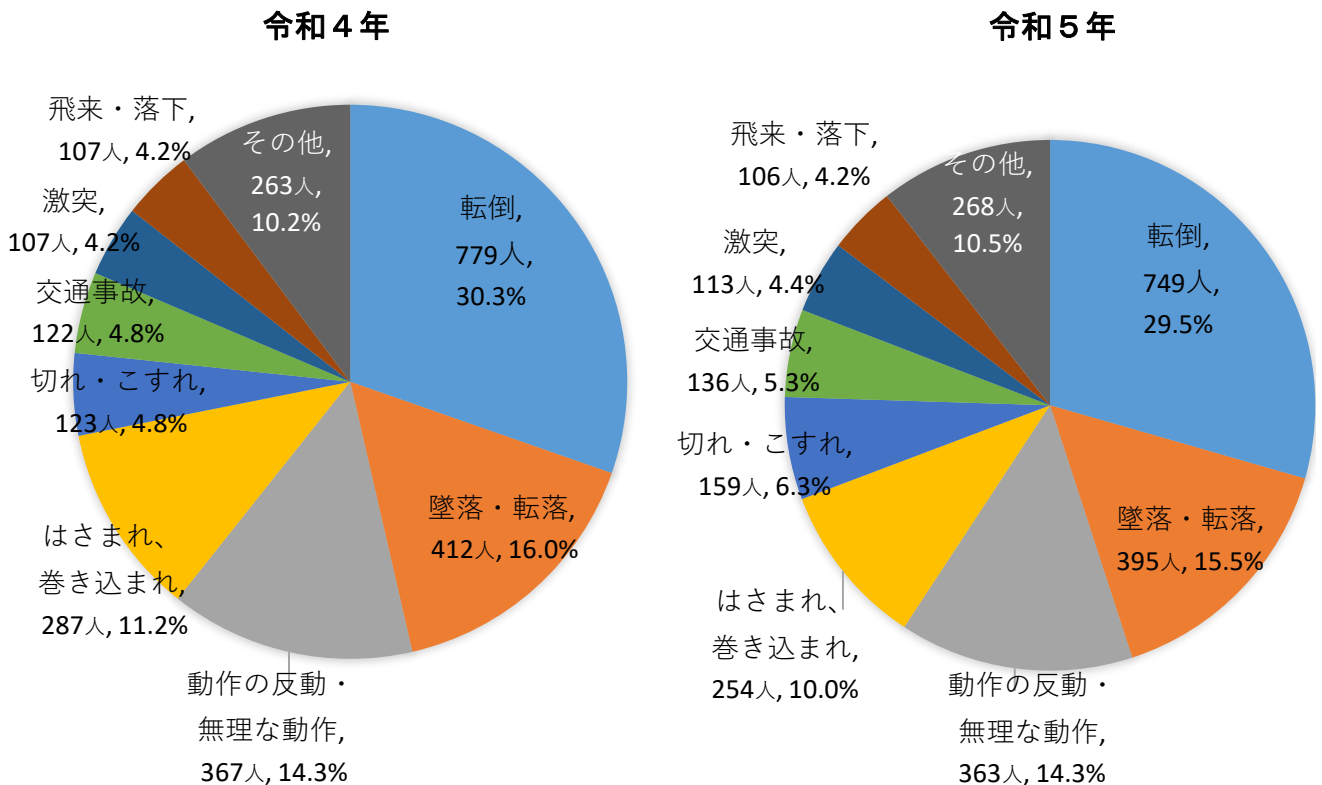
- 1 グラフ1～6
- 2 表「令和5年労働災害発生状況(新型コロナウイルス感染症を除く)(確定)」
- 3 「令和5年宮城県内における死亡災害発生の概要」



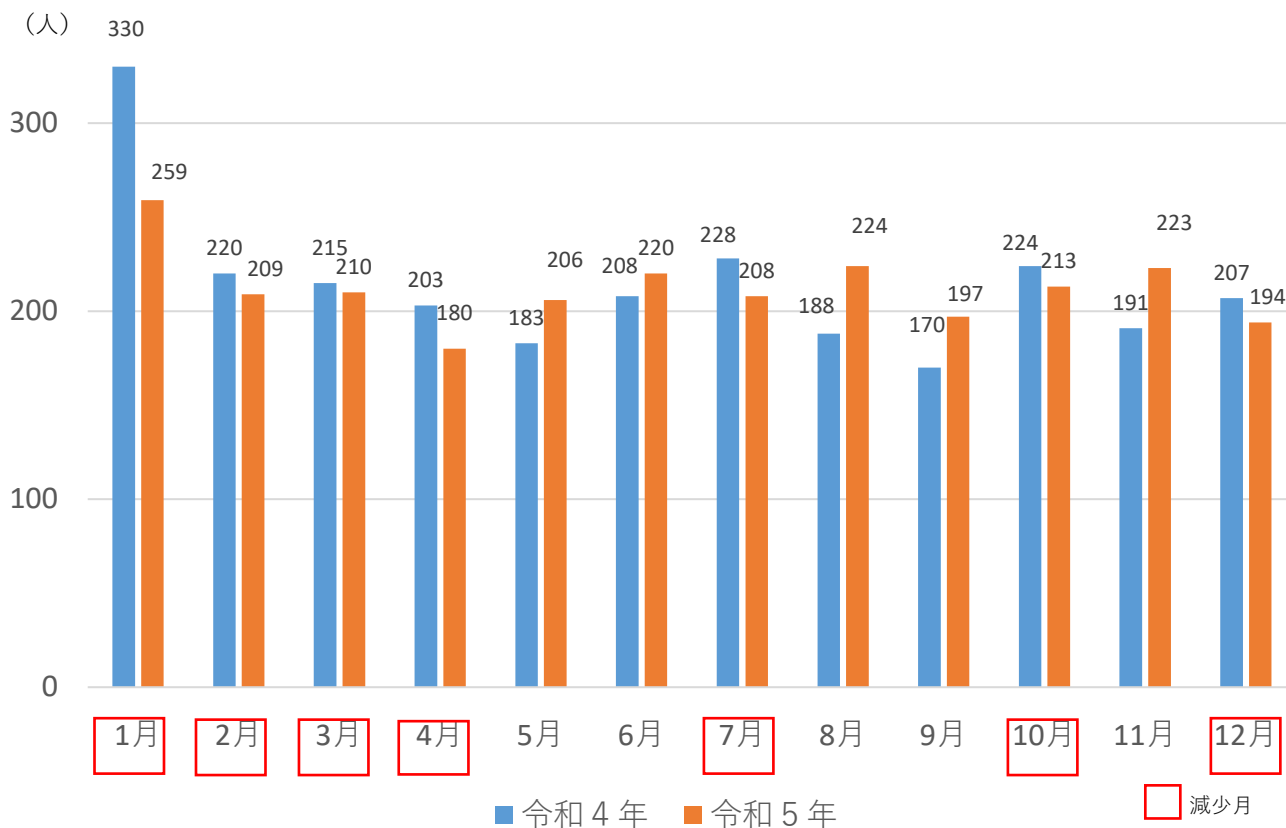
グラフ2（労働災害の推移）



グラフ3（事故の型別死傷者数の割合）



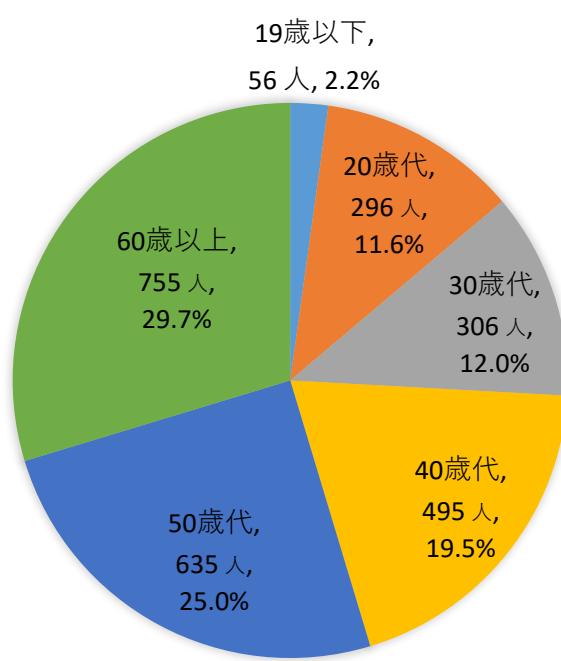
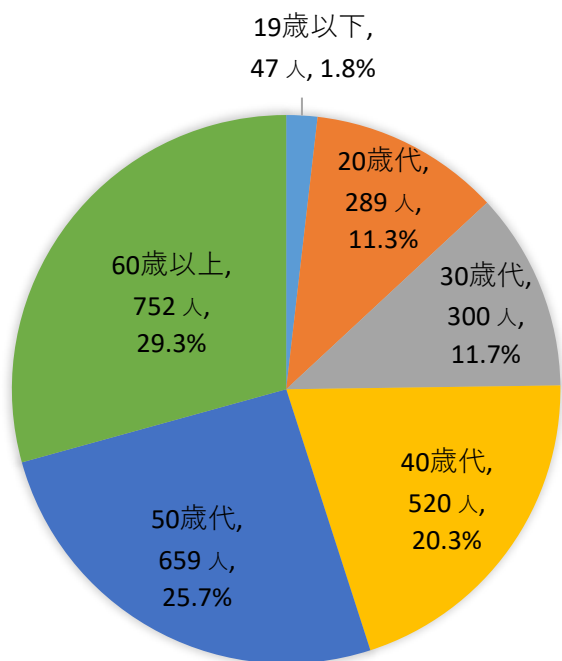
グラフ4（死傷者数の月別推移）



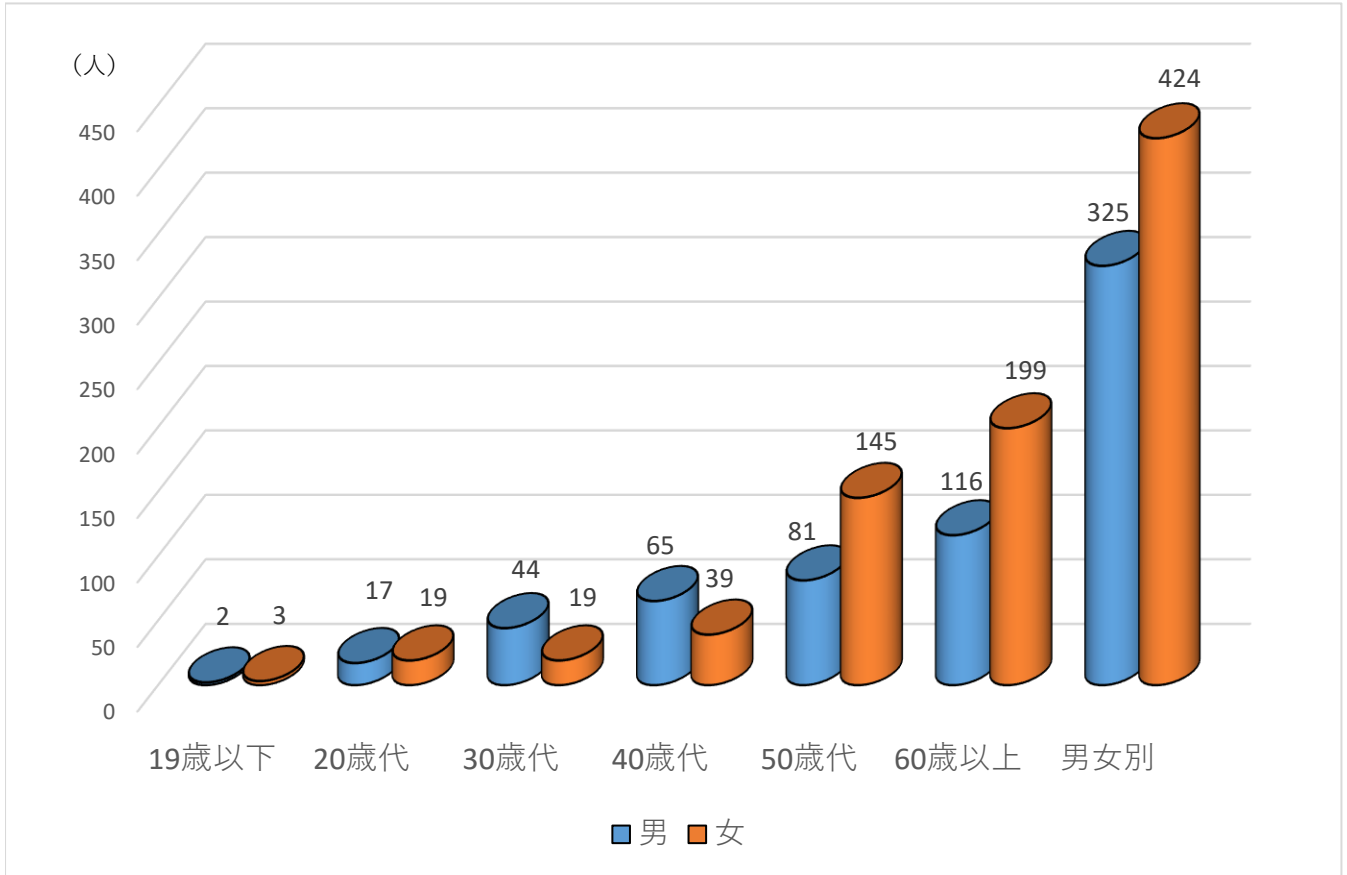
グラフ5（年代別死傷者数の割合）

令和4年

令和5年



グラフ6 (転倒災害の年齢・男女別の状況)



令和5年労働災害発生状況(新型コロナウイルス感染症を除く)(確定)

令和6年6月10日作成

宮城労働局

業種別	令和2年全期		令和3年全期		令和4年全期		令和5年全期		前年同月増減			
	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	死傷者数	死亡	増減数	増減率	増減数	増減率
全産業	2370	15	2691	14	2567	15	2543	19	-24	-0.9%	4	26.7%
製造業	464	5	485	1	440	4	410	4	-30	-6.8%		
食料品製造業	194	2	213	1	203		211		8	3.9%		
水産食料品製造業	72	2	86	1	65		73		8	12.3%		
その他	122		127		138		138					
繊維工業、衣服その他の繊維製品製造	5		9		9		4		-5	-55.6%		
木材・木製品製造業	14		7		21	2	9	1	-12	-57.1%	-1	-50.0%
家具・装備品製造業			2		3		1		-2	-66.7%		
パルプ・紙・紙加工品製造業	5		8		13		4		-9	-69.2%		
印刷・製本業	10		10		2		7		5	250.0%		
化学工業	28		22		11		8		-3	-27.3%		
窯業土石製品製造業	25		16		21		18		-3	-14.3%		
鉄鋼業、非鉄金属製造業	13	1	12		9	1	8		-1	-11.1%	-1	-100.0%
金属製品製造業	47		45		30		33	1	3	10.0%	1	
一般機械器具製造業	18		21		17		18		1	5.9%		
電気機械器具製造業	19	2	38		34		28	1	-6	-17.6%	1	
輸送用機械等製造業	27		27		24		17	1	-7	-29.2%	1	
造船業	15		7		12		4	1	-8	-66.7%	1	
その他	12		20		12		13		1	8.3%		
電気・ガス・水道業	7		7		3		6		3	100.0%		
その他の製造業	52		48		40	1	38		-2	-5.0%	-1	-100.0%
鉱業	3		7	1	8		10	2	2	25.0%	2	
土石採取業	3		6	1	8		9	2	1	12.5%	2	
その他			1				1		1			
建設業	283	3	318	5	309	5	300	4	-9	-2.9%	-1	-20.0%
土木工事業	94	1	106	3	102	3	86		-16	-15.7%	-3	-100.0%
建築工事業	156	2	157	2	153	1	164	2	11	7.2%	1	100.0%
鉄骨・鉄筋コン造家屋建築工事	46	2	50	1	52		48		-4	-7.7%		
木造家屋建築工事業	59		67		58		57	1	-1	-1.7%	1	
建築設備工事業	19		18	1	12		10		-2	-16.7%		
その他の建築工事業	32		22		31	1	49	1	18	58.1%		
その他の建設業	33		55		54	1	50	2	-4	-7.4%	1	100.0%
運輸交通業	337	2	428	3	363	2	369	1	6	1.7%	-1	-50.0%
鉄道・軌道・水運・航空業	4		8		7		4		-3	-42.9%		
道路旅客運送業	28		47		34		51		17	50.0%		
道路貨物運送業	305	2	372	3	319	2	312	1	-7	-2.2%	-1	-50.0%
その他の運輸交通業			1		3		2		-1	-33.3%		
貨物取扱業	16		24	1	23		21	1	-2	-8.7%	1	
陸上貨物取扱業	12		16	1	16		17		1	6.3%		
港湾運送業	4		8		7		4	1	-3	-42.9%	1	
農業	18	1	27		23	1	30		7	30.4%	-1	-100.0%
林業	31	2	33		24		32	1	8	33.3%	1	
畜産・水産業	25		22		33	1	32		-1	-3.0%	-1	-100.0%
商業	412	1	490	3	497		443	3	-54	-10.9%	3	
卸売業、小売業	362	1	416	3	435		392	2	-43	-9.9%	2	
その他	50		74		62		51	1	-11	-17.7%	1	
金融・広告業	24		29		23		28		5	21.7%		
映画・演劇業	1		3		2		2					
通信業	40		31		33		25		-8	-24.2%		
教育・研究業	30		35		43		41		-2	-4.7%		
保健衛生業	279		328		300		347		47	15.7%		
接客娯楽業	144		151		181		179	1	-2	-1.1%	1	
旅館業	31		26		35		37	1	2	5.7%	1	
ゴルフ場	9		7		13		6		-7	-53.8%		
その他	104		118		133		136		3	2.3%		
清掃・と畜業	117	1	130		154	1	135		-19	-12.3%	-1	-100.0%
ビルメンテナンス業	66		66		81		76		-5	-6.2%		
廃棄物処理業	42	1	50		63	1	47		-16	-25.4%	-1	-100.0%
その他	9		14		10		12		2	20.0%		
官公署	6		4		3		4		1	33.3%		
その他の事業	140		146		108	1	135	2	27	25.0%	1	100.0%
警備業	34		44		40		52		12	30.0%		
その他	106		102		68	1	83	2	15	22.1%	1	100.0%
陸上貨物運送業	317	2	388	4	335	2	329	1	-6	-1.8%	-1	-50.0%
第三次産業	1193	2	1347	3	1344	2	1339	6	-5	-0.4%	4	200.0%
小売業	299		348	3	358		327	1	-31	-8.7%	1	
飲食店	82		92		111		113		2	1.8%		
社会福祉施設	214		256		232		259		27	11.6%		

1. 死傷件数は令和5年12月末日までに発生した災害について令和6年4月8日までに確認できた労働者死傷病報告(休業4日以上)により計上しています。
2. 死亡件数については、令和6年3月31日までに業務上災害として認定したものにより計上しています。
3. 陸上貨物運送業は、道路貨物運送業と陸上貨物取扱業の合計です。
4. 第三次産業は、商業、金融・広告業、映画・演劇業、通信業、教育・研究業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃・と畜業、官公署、その他の事業の合計です。

令和5年 宮城県内における死亡災害発生の概要

番号	業種	労働者数	事故の型	発生状況
	発生月	時間帯	起因物	
1	機械器具 設置工事業 (3.3.2)	1～10人	はさまれ、 巻き込まれ	勤務終了後、事業場敷地内の構内道路を駐車場に向かって歩いて いたところ、交差点を横断中に左折してきたダンプトラックに轢 かれたもの。
	1月	16時台	トラック	
2	その他の 卸売業 (8.1.9)	1～10人	はさまれ、 巻き込まれ	2トンダンプトラックで牡蠣殻の運搬作業中、ダンプトラックを 降車後に逸走したダンプトラックに轢かれたもの。
	1月	14時台	トラック	
3	金属製品製造業 (1.12.3)	10～49人	分類不能	作業場で金属製の架台の組立作業に従事していた。作業の様子を 見に行ったところ、作業場内で頭部から出血し仰向けの状態で倒 れていたもの。
	1月	6時台	分類不能	
4	その他の 建設業 (3.3.9)	50～100人	交通事故 (道路)	移動式クレーンを回送するため、国道を走行中に病気による意識 障害を起こし、車両ごと道路脇の用水路に転落した。この際、運 転席に大量の泥が流入したことにより窒息したもの。
	3月	15時台	移動式 クレーン	
5	その他の 建築工事 (3.2.9)	10～49人	墜落、転落	事業場資材置場に資材の雨よけ小屋を設置する作業中、移動式ク レーンで木製パレットとワイヤモッコを組み合わせた搭乗設備で 被災者を吊り上げ、アーク溶接しようとしたところ、バランスを 崩して地面に墜落したもの。
	3月	16時台	移動式 クレーン	
6	木造家屋 建築工事業 (3.2.2)	10人未満	墜落、転落	木造平屋の倉庫新築工事にて、コーキング作業の下準備作業中、 養生テープを貼るため足場から地面に降りようとしたところ、バ ランスを崩してコンクリート面に墜落したもの。
	3月	9時台	足場	
7	造船業 (1.15.1)	100～299人	墜落、転落	船へ荷物を運搬する作業中、岸壁と船にかけてあるタラップから 足を踏み外し、海に転落したもの。
	4月	10時台	階段、棧橋	
8	合板製造業 (1-4-2)	100～299人	はさまれ、 巻き込まれ	製造ラインにて、機械加工された材料をリフターと呼ばれる装置 に積み上げる工程で、一定量重なった材料を送り出す装置付近で 頭部から出血し倒れていたもの。
	4月	5時台	動力運搬機	
9	採石業 (2-2-1)	10人未満	転倒	ドラグ・ショベルで石をダンプトラックに積み込み後、アームを 上げたまま傾斜を登っていたところ後方に転倒し、上下が逆にな った運転席から落下しキャビンに激突した。負傷して入院して いたが、半年後に死亡したもの。
	4月	15時台	建設機械等	
10	派遣業 (17-1-1)	50～99人	交通事故 (道路)	大型バスに乗り合い派遣先事業場に向かうため高速道路を走行 中、車両のトラブルにより停車していたところ、後方からトラッ クが追突したもの。
	5月	20時台	トラック	

令和5年 宮城県内における死亡災害発生の概要

番号	業種	労働者数	事故の型	発生状況
	発生月	時間帯	起因物	
11	派遣業 (17-1-1)	50～99人	交通事故 (道路)	大型バスに乗り合い派遣先事業場に向かうため高速道路を走行中、車両のトラブルにより停車していたところ、後方からトラックが追突したものの。
	5月	20時台	トラック	
12	旅館業 (14-1-1)	10～49人	墜落、転落	8階建て建屋の屋上にて設備清掃を行っていたところ、5階屋上に墜落したものの。
	7月	9時台	建築物 構築物等	
13	林業 (6-2-1)	10人未満	激突され	伐木作業にて、チェーンソーで立木Aを伐倒した際に絡んでいたつるで立木Bが引っ張られ、倒れてきた立木Bの下敷きになったものの。
	7月	15時台	立木等	
14	小売業 (8-2-9)	10人未満	高温・低温物 との接触	リサイクル品の回収作業を行った後、作業場に戻り、2回目の休憩を作業場敷地内の日陰となる休憩場所に向かい休憩をとっていたが、休憩時間が過ぎても戻ってこなかったため、様子を見に行ったところ倒れていたものの。
	7月	10時台	高温・低温 環境	
15	砂利採取業 (2-2-2)	10～49人	はさまれ、 巻き込まれ	被災者と同僚の2名で機械（回転式のふるい）の網の交換作業を終了し両名とも現場を離れた。その後被災者が再び機械に戻り機械内で作業していたことに気づかず同僚が同機械の電源を入れたため、機械に巻き込まれたものの。
	8月	16時台	動力機械	
16	道路貨物 運送業 (4.3.1)	50～100人	墜落、転落	荷主事業場内駐車場にて、4tウイング車から荷の入ったロールボックスパレット3台の荷下ろし準備作業に従事していた被災者が、荷台後方からロールボックスパレットと共に転落し、下敷きになったものの。
	8月	10時台	トラック	
17	港湾荷役業 (5.2.2)	100～299人	はさまれ、 巻き込まれ	貨物船倉内でバラ荷の集積作業において、ブルドーザーを操縦して山になったバラ荷の山を超えた際、操縦席から振り落とされ、ブルドーザーに轢かれた。
	9月	14時台	建設機械等	
18	その他の商業 (8-4-9)	10人未満	交通事故 (道路)	積荷をトラッククレーンの荷台に積み込み、事業場に戻るため県道を走行中、対向車と衝突して道路脇に転落したものの。
	10月	11時台	トラック	
19	その他の電気 機械器具製造業 (1-14-9)	10～49人	墜落、転落	工場の屋上換気扇移設作業の調査のため、屋根に上り換気扇設置箇所へ向かっていたところ、屋根の波板を踏み抜き墜落したものの。
	10月	14時台	仮設物 構築物等	